



国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は十八ページまでである。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験票と照合して受験番号が正しいかどうか確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえらないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	

(一) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

研究をしながら、多くの学生を研究者として育てたけれど、発想のし方だけは、どうしても教えることができなかった。当たり前だ、自分でも、どのようにして思いついたのか、わからないのだから。それどころか、その最初の思いつきがどんなものだったかも説明できない。説明ができるようになるのは、発想から育てたアイデアである。

発想が最初の種だとすれば、アイデアというのは芽や葉を出した苗のようなもので、この段階で初めて、ほかの人に説明ができ、みんなですべてを育てることができるようになる(育つまえに枯れる可能性が高いが)。つまり、自分の頭から外に出せるのは、発想そのものではなく、他者にもわかるように、論理的に育てた「アイデア」なのだ。

茫然とした発想には、手法なんてものがあるとは思えない。だから、もし「自由な発想の方法」というような本があったら、そこに書いてあることは、驚愕の新事実か、それともなんの役にも立たない戯言だろう、と僕は考える。驚愕の新事実だとしたら、そのうち世界中の話題になるはずだから、本を読まなくてもいざ聞こえてくる。

ただ、ときどきではあるけれど(つまり確率はかなり低い)、もともとその才能を持っていたのに、なんらかの思い込みで自分の能力を封印しているような人が、その封印を解き放つ本や師に出会うことで開眼する、といった現象は起こりうると考えられる。そういう意味では、ほんの少し「教育」にも期待が持てる。すなわち、子供たちの可能性をいかに潰さないか、という方向性だ。僕が見たところ、現在の若者は常識に縛られ、具体的な大量の情報によって抑制されている。できるのに、できないと思いつまされてる人が大勢いる。昔よりもむしろ増えているのではないだろうか、と感じるほどだ。

まず大まかにいうと、個人がそれぞれに持っている抽象的思考の能力に対して障害となるのは、「これはこういうものなんだ」という外界からの押しつけであり、それらの情報の圧倒的な多さが、「疑問など持つな」と働きかける。教育という行為は、少なからず、具体的情報を押しつける行為であり、ぼんやりと存在していた個人のイメージに対し、みんなて共有するために意味を限定(すなわち、定義)する作業の集積でもある。結果として、皮肉なことに、教育が抽象的思考を阻害する可能性があること

を、まず自覚しなければならぬ。

知識を得ることは、抽象的思考とは方向性がまったく異なる。もしも、知識の多さが「理解」であり、知識によって物事がすべて解決できると思い込めば、もうなにも考える必要がなくなってしまう。子供のうちから、知識の詰め込みを重視し、覚えた情報が多さがテストの点数になるのだから、考え方よりも知識量重視になるのも無理はない。

今の子供たちにとって大事なことは、「覚えること」と「忘れないこと」そして「正確にそれを思い出せること」であって、「思いつけること」ではない。だから、たまたま思いつけるかどうかで解けるか解けないかが決まるような問題は、勉強した者が馬鹿を見る悪い問題だ、と判断されてしまう。

A、そういう試験でなければならぬらしい。「頭の悪いなどない」「どんな子でも、努力をすれば必ず報われるのだ」と教師は信じたし、実際にそう教えているかもしれない。だが、子供にしてみれば、努力とはつまり、目の前にあるものを覚えることなのだ。子供は、それ以外に努力のしようがない。何故なら、思いつくこと、突飛な発想をすることは、「努力」とは全然違った行為だと本能的に認識できるからだ。覚えることには苦勞が伴うのに、思いつくことはそうではない。思いつける子は、一瞬でそれができてしまうし、一見して楽そうに見える。ほとんどの子は、どんなに努力をしても、全然思いつけない。

さらに、みんなが同じようにしなければならぬ、という風潮が現代社会の根底にある。自分の子供が特別であっては困る、と親たちは考えている。それは、もともとは「機会の平等」と表現されるものだったはずだが、実質的には「**B**」を浸透させただろう。特に、個々人の情報が広く発信され、簡単にアクセスできる時代になったため、極めて具体的な細かいことまで、他者と同じでありたい、と考えてしまう。自分だけが違っていると、それだけで不安になる。本を読んだら、自分がどう感じたかを振り返るまえに他者の感想が気になってネットを検索する、それが今の若者たちである。

最近では、不思議なこと、わからないことは、すぐにネットで検索する。もし、図書館で調べるとしたら、図書館が開く時間まで待たなければならぬ。そうなる、それまでの時間は、謎は謎のままその人の頭の中で放置されている。少なくとも、少しは自分で謎に取り組み(あるいは、ぼうつと眺める)時間が必然的に生まれる。ところが、すぐに検索できる便利さが普及し

たおかげで、「不思議だ」と思うのも束の間のこと、考えるよりもさきに、ネットにアクセスしてしまう。

このような現代において、抽象的思考をするのは、たしかに難しくなっていると感じられる。あまりにも、具体的な情報が沢山あつて、しかも簡単に(安く)得られるようになってきているからだ。人々が抽象的思考をしない理由には、こんな社会環境もあるとは思う。

III

さらには、考えなくても大きな問題が起こらないインテリジェントな生活環境が実現していることも挙げられる。現代は、深く考えなくても、そこそこ生きていける社会なのである。たとえば、危険なものは身近なところからことごとく遠ざけられた。使い方を間違えて事故が起こった場合も、あらかじめその対処をしていなかった製品や取扱い説明書の不備が追及される。なんでも、企業や国の責任になる。食べてはいけないものは、公共機関が市場に出さないようにコントロールしてくれる。もし、食べて病気になったら、どこかの機関を訴える。食べるときにちよつと変な匂いがしたけれど、特に注意を受けなかったから食べた、というような場合でも、責任は食べた本人にはない、と捉えられる。

使い方はすべて、詳細にマニュアル化され、懇切丁寧に説明される。わからないものがあれば、それは悪いものだ、とみんなが考えている。文字が小さくて読めない、と文句を言う人もいるし、電車の中が騒がしい、と鉄道会社にクレームをつける人もいる。

こういう社会、こういう大人たちを見て、子供は育つ。考えなければならぬ問題があれば、「こんなことは学校で習っていない」と文句を言うだろう。文句を言わなくても、不満に思う。腹を立てるばかりで、自分でそれを考えてみようとはしない。極端なことを羅列したが、こういう傾向があるということは、誰もが認めるところだと思ふ。さらに極端に考えてしまう人が、ときどきとんでもない罪を犯すが、そんな事件に対しても、「近頃の教育は問題だ」「家庭の会話が不足している」というような具体的な理由で蓋をしようとするのである。

さあ、いったいどうしたら良いだろうか？

「具体的なものに囚われるな」と言う言葉を発したところで、解決する問題ではない。また、既に書いたように、こういう教育

をすれば良いのか、という問いにも答えはないだろう。

たぶん、社会全体を変えることはできない、と僕は思う。どうして変えられないかという点、それは、変えたくないと思っ
ている勢力が社会を支配しているからだ。その人たちは、具体的な情報で大衆を煽動し、大きな利益を得ている。その仕組みを想
像できる人は少なくないだろう。簡単な例を挙げれば、流行に左右される人が多いほど、ファッション業界は儲かる。マスコミ
に左右される人が多いほど、広告産業が儲かる。投資に金をつぎ込む人が多いほど、やはり経済は活性化し、大きな資本がもつ
と儲けを増やすのである。

人間の欲望というのは、本当に凄い。こんなことまで考えるのか、と驚くばかりである。非常に緻密で、計算され、計画さ
れ、あの手この手で儲けようとする。こういった一部の人が経済的に潤うように社会の仕組みはできている。もちろん、儲かる
からこそ、そういう仕組みを築き上げたのだ。

V

みんなが、「ネットで沢山の友人が作れて良い社会になったね」と感じているそのネットも、すべてにながしかの資本が支配し
ているわけで、そこが儲けられるのは、みんなから少しずつ搾取きとしているからにほかならない。客観的、抽象的に見れば、そう
なる。

だから、僕が書いているような考え方というのは、その「社会や経済を作っている人たち」からは疎とまれるものになるだろう。
しかし幸いにして、言うこと、書くことは自由だし、もちろん考えることはもつと自由だ。そして、社会を変えられなくて
も、誰でも自分自身ならば比較的簡単に変えられる。

(森博嗣 『人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか』による)

問一 傍線 a「発想のし方だけは、どうしても教えることができなかった」とあるが、なぜ発想のし方を教えることができなかったと筆者は言っているのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 知識の詰め込みを重視する現在の教育では、発想の指導をしても、テストの点に結びつかないから。
- 2 発想は自由に生まれるところに価値があるので、発想法を考えるなど、無意味で役に立たないから。
- 3 発想はアイデアとして頭から外に出すと、記憶が薄れ、どうやって思いついたかを忘れてしまうから。
- 4 茫漠とした発想は才能のある者にしかできないが、どの学生に才能があるかを見定めるのは難しいから。
- 5 発想とはアイデアになる前のひらめきや思いつきであり、論理的な思考から生まれるものではないから。

問二 傍線 b「そういう意味では、ほんの少し「教育」にも期待が持てる」とあるが、どのような意味で期待が持てるかと筆者は考えているのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 素晴らしい本や師に出会うことによって、「自分はできない」という思い込みが消え、才能を発揮し、理にかなった発想を生み出せるようになる人もいる。
- 2 情報や常識から解放される方法を学ぶ機会があれば、みんなと同じでなければならぬという思い込みが消え、自由な発想ができるようになる人もいる。
- 3 ある本や先生との出会いによって、それまで囚われていた常識や情報から解放され、発想を生み出す能力が開花し、抽象的な思考ができるようになる人もいる。
- 4 才能を持つている学生を見極め、その能力を潰さないような教育的方向性を示せる教師がいれば、自然と、発想から論理的にアイデアを組み立てられる人もいる。
- 5 子供の可能性に配慮した指導ができる教員や本に巡り合うことによって、徐々に、具体的な思考から抽象的な思考へと移行し、才能を開花させるようになる人もいる。

問三 空欄 **A** に入る表現として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 想像力があればそれなりの点は取れる
- 2 正確な知識だけでは良い点は取れない
- 3 あいまいな知識でも合格点なら取れる
- 4 どれだけ勉強しても高得点は取れない
- 5 真面目に勉強をすれば良い点が取れる

問四 空欄 **B** に入る言葉として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 共生
- 2 没個性
- 3 自己否定
- 4 ネット依存
- 5 情報至上主義

問五 本文中から次の一文が脱落している。入るべき箇所は、本文中の **I** ~ **V** のどこか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

子供は、教えられたものを覚えれば、それで社会の成功者になれる、と簡単に信じてしまうだろう。

1 **I**

2 **II**

3 **III**

4 **IV**

5 **V**

問六 傍線d「変えたくない」と願っている勢力が社会を支配している」とあるが、なぜ変えたくないのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 広告に流されて一時的な流行を追いかけていた人たちが、永遠の価値を求めるようになるから。
- 2 情報に踊らされていた人たちが、自分が搾取の対象になっていることに気がついてしまうと困るから。
- 3 情報に依存している人たちが、与えられている情報はねつ造されていると疑うようになると困るから。
- 4 ネットで具体的な情報を得ていた人たちが、ネット以外の方法で情報を収集するようになるから。
- 5 経済的に潤っている一部の人が、社会の矛盾に気づき、欲望を抑えるようになってしまうと困るから。

問七 傍線e「社会を変えられなくても、誰でも自分自身ならば比較的簡単に変えられる」とあるが、どのように変えられると筆者は考えているのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 今の社会はマスコミが大衆を煽動する構造になっているが、自分で判断し、情報の中から価値のある必要なものだけを選ぶことはできるはずだ。
- 2 みんなと同じでなければならぬという風潮はあるが、自分が他者と違っていても不安にならずに、自分の判断を信じることはできるはずだ。
- 3 近頃は検索すれば情報は簡単に手に入るが、常に受け手の側になるのではなく、自由な発想で情報を生み出し、自ら発信することもできるはずだ。
- 4 現代の社会環境では抽象的思考が難しくなっているが、具体的な情報や常識に縛られずに、物事のとらえ方を変えようとすることはできるはずだ。
- 5 一部の人が大衆を支配しているという社会の仕組みは変えられないが、自由に考え、自分からアイデアを発表していくことはできるはずだ。

問八 傍線c「教育が抽象的思考を阻害する可能性がある」とあるが、それはなぜか。本文に即して三十五字以内(句読点を含む)で説明せよ。

(二) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

酷暑の東京の空には、いわし雲が広がり、確実に秋が来ていることを告げていた。きつとこの調子なら、安達太良山も真つ青な空を冠しているに違いない。智恵子が言った「ほんとの空」だ。

八月の下旬、私は『智恵子抄』を手に東京駅から東北新幹線に乗った。

智恵子は東京に空が無いといふ、

ほんとの空が見たいといふ。(中略)

阿多多羅山の山の上に

毎日出てゐる青い空が

智恵子のほんとの空だといふ。(後略)

(高村光太郎著『智恵子抄』所収「あどけない話」)

長沼智恵子が高村光太郎と初めて会ったのは明治四十四(一九一)年の暮、東京駒込の光太郎のアトリエだった。智恵子の大学の先輩が光太郎の友人と結婚しており、その縁で夫人に伴われて訪問したのだった。以来、智恵子は光太郎のアトリエに通うようになる。

当時、智恵子は洋画家を志しており、平塚らいてうが創刊した A の表紙絵などを描いていた。いわゆる「新しい女」だった。一方の光太郎はアメリカ・ヨーロッパ留学から戻ったばかりで、日本の旧体制に反発、「パンの会」などを結成し新芸術運動を展開していた。新しい芸術を志向する二人はたちまち惹かれ合う。

大正二(一九一三)年、二人は婚約し、翌年から一緒に生活を始める。彼らはそれを結婚とは呼ばず、「共棲」と呼んだ。表現者である互いの時間を尊重し合い、男女分けへだてなくくらしという新しい夫婦のかたちだった。しかし時代はまだ彼

らに追いつかず、アトリエでの理想の共棲生活は貧困を極め、芸術という一つの志の陰で、二人は日々の生活に追われた。結局智恵子は光太郎のために自らの創作を諦めなくてはならなかった。またそれに気づいていながら、智恵子の好意に甘んじるしかなかった光太郎でもあった。

そんな智恵子に、災難が相次いだ。自身の病氣、父の死、実家の倒産、そして一家離散。それらはじわじわと智恵子の心を蝕んでいったようだ。昭和六（一九三二）年八月、智恵子に精神しようがい最初の兆候が顕れた。以後、智恵子の病状は確実に進んでいく。そんな智恵子に光太郎は辛抱強く寄り添う。が病状は悪化の一途を辿り、同十年、南品川のゼームス坂病院に智恵子は入院する。窓格子も鍵もない、当時としてはセンク的な病院だった。

光太郎はしばしば千疋屋から花と果物籠を病室に届けさせ、時折自らも病室に見舞った。毎週届けられる美しい花や果物を智恵子が切り絵で表現しはじめたのは、入院の翌年からだったという。以来二年半の入院生活で千数百点にも及ぶ紙絵を智恵子は創作した。紙絵が完成するまでは食事にも手をつけず、朝から鉄てつを手てに紙に向かった。出来上がった作品は主治医にも見せず、光太郎のみに見せたという。

昭和十三年十月五日、粟粒性肺結核のため智恵子は永眠する。享年五十二歳だった。

福島県二本松市に残る智恵子の生家を訪ねた。奥州街道に面した長沼家はかつては裕福な造り酒屋で、数十人の男衆が働いていた。古びた大きな杉玉が **B** を偲おもばせていた。

智恵子はこちらから女学校に通い、さらに東京の女子大に進学する。卒業後は、東京谷中の太平洋画会研究所に通い、中村不折等から絵面の指導を受けるようになる。そしてこの頃光太郎と出会う。

長沼家の隣に立つ智恵子記念館で、切り絵の実物を見せていただいた。色彩が素晴らしく健康的で、精神を病んだ人の作品とは思えない。智恵子は進はとり出しるものを惜しみなく紙にぶつけたに違ちがいない。病を得たことで、自身の欲求に蓋をすることから解放されたのだ。「樹下の二人」『智恵子抄』所収の舞台とされる長沼家の裏山に登った。あれが阿多多羅山、あの光るのが阿武隈川（後略）智恵子の弾んだ声が聞こえてきそうだ。

もし光太郎が智恵子というミューズに出会っていないならば、光太郎は世に出ていなかったのではないだろうか。ずっと胸の中に燻くもっていたことが思わず口をついて出た。案内してくださった地元の方が言った。「そうかもしれない。しかし」。

C。その日は午後から雲が出てきて、私たちが訪れたときには、安達太良山の頂は雲に覆われ、智恵子の「ほんとの空」を見ることはできなかった。

心の病を得た智恵子と光太郎が連れ立って東北へ湯治に来たのは昭和八年のことである。二人はこの年入籍を果たす。二人が泊まった部屋が当時のまま残る不動湯温泉を訪れた。吾妻山の東麓とうふもとにある秘湯ひつゆの一軒宿で、途中幾度も道を間違えたかと思うほど山深いところにあつた。

宿に着くとすぐに湯に入った。湯船はちょうど大人一人が寝るのによい大きさだった。私は湯船の縁に付いている陶枕たうまくしに頭を置き、ひぐらしの声を聞きながら、仰向けに身体を伸ばした。二人が泊まったのは九月一日から四日までの三泊。湯船も昔のままというから、きつと智恵子もこのように湯に身を浸しながらひぐらしの声を聞いたに違いない。

夕食の後、ご主人に宿帳を見せていただいた。光太郎の字で高村光太郎、智恵と書いてある。ご主人が先代から聞いた話では、二人はよく散歩へ出かけたそうだ。散歩中に拾った木片に彫刻をしていたらしく、部屋の掃除をすると木屑こくずが散らかっていたことなどを話してくださつた。今も不動湯には二人を偲んで泊まりにくるファンが絶えないという。

智恵子ファンと光太郎ファンのどちらが多いかと私が尋ねると、女将さんはしばらく首を傾げて考えてから「どちらのファンというわけでもない。要は皆さん、『智恵子抄』のファンなんですよ」と言つた。

智恵子の忌日はかの「レモン哀歌」にちなんでレモン忌と呼ぶそうだ。今年も十月五日のレモン忌がくる。

(黛まどか『文豪、偉人の「愛」をたどる旅』による)

〔注〕 安達太良山：「あだたらやま」とも「あたたらやま」ともいい、「阿多多羅山」は高村光太郎の表記。

ミューズ：ギリシャ神話に出てくる芸術をつかさどる女神。

問一 傍線イ、ハのカタカナを漢字で記せ。

問二 傍線ロ、ニの読み方をひらがなで記せ。

問三 空欄 A に入る雑誌名として適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 『太陽』 2 『明星』 3 『白樺』 4 『青鞥』 5 『スバル』

問四 傍線 a「出来上がった作品は主治医にも見せず、光太郎のみに見せたという」とあるが、なぜ筆者はこの一文をここに記したのか。文章全体の文脈から読解し、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 光太郎が理想の「共棲」の相手だという思いが智恵子にあったに違いないと考えたから。
- 2 光太郎が毎週届けてくれる花や果物が智恵子にはあまりにも美しかったに違いないと考えたから。
- 3 智恵子には光太郎が旧体制と戦う新芸術運動の芸術家だと理解されていたに違いないと考えたから。
- 4 智恵子の病状が進んでも辛抱強く寄り添ってくれた光太郎への感謝があったに違いないと考えたから。
- 5 智恵子は本能的に主治医の仕事と光太郎の仕事の本質的な相違が分かっていたに違いないと考えたから。

問五 傍線 b「病を得たことで、自身の欲求に蓋をすることから解放された」とあるが、その結果どのような状態になったのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 二人の新しい夫婦のかたち、時代がようやく追いついてきた状態
- 2 東京の空ではなく、安達太良山の真つ青な空を二人で眺めている状態
- 3 創作方法としては、洋画より切り絵の方が智恵子の情感を解き放った状態
- 4 光太郎との生活のために諦めていた、智恵子自らの創作意欲が迸り出る状態
- 5 洋画家を志す「新しい女」智恵子の感性を封じる旧体制がすでに存在しない状態

問六 空欄 B に入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 懐古
- 2 太古
- 3 往時
- 4 時節
- 5 往生

問七 空欄 C に入る表現として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 智恵子と光太郎は夫唱婦隨の関係なのです
- 2 光太郎はやはり智恵子あつての光太郎です
- 3 智恵子は光太郎の芸術を完成させたのです
- 4 光太郎は智恵子の犠牲があつての光太郎です
- 5 智恵子もまた光太郎あつての智恵子なのです

問八 傍線 c「智恵子の「ほんとの空」とあるが、どのような空か。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 弾むようなさわやかな空
- 2 無垢な心にとらえられた空
- 3 素朴で一本気な心に映る空
- 4 輝くように美しく気高い空
- 5 色彩が素晴らしく健康的な空

(三) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

おもはざりき、昌泰四年正月二十九日に、左大臣(藤原時平)讒奏ざんそうによりて、太宰権帥たさいのんのそつにうつして、流罪の宣旨下るべしとは。菅丞相(菅原道真)かなしみのあまりにたへずして、三十一文字をつらねて、亭子法皇(宇多法皇)にぞ奉りし。

ながれ行く われはみくづと 成りぬとも 君しがらみと なりてとどめよ

法皇この歌を御覽じて、御涙にむせび給ひつつ、さりとも帝王(醍醐天皇)もわが御子なれば、申さむになかかなはざらんとおぼしめしつつ、十善の御足にきたなきいどるをふみ付けて、上西門をいりて、豊楽院・真言院うちすぎ、清涼殿にちかづきましましけれども、そのとき菅根卿、藏人頭にて、むかし殿上の夜よの御遊につらをうたれ奉りたりける恨みのふかさに、奏達せざりければ、あぢきなく、おほぼのなしの木をうらめしと御覽じて、赤日山のはにかたぶき、涙にもくれつつ、還御なりしぞ、あさましくはおぼえし。

その後勅宣おもくして、男女の御子息二十三人の中に、男子四人はおなじく四方にながされき。おとなしくおはしましける姫君は京の中にとどめおき、いとけなくおさなき君達うちぐして出で給ひしに、すみなれ給ひける紅梅殿のなつかしさのあまりに、心なき草木にもちぎりをぞむすび給ひける。

東風ふかば 匂ひおこせよ むめの花 あるじなしとて 春をわするな

さくら花 ぬしをわすれぬ ものならば ふきこむ風に ことづてはせよ

かやうの歌のみかきとどめて給ひけることばぞ、哀れには侍る。

〔注〕 みくづ…水屑。水の中のごみ。

しがらみ…柵。川の流れを堰せき止めるために、杭を打ち並べ柴や竹などをからみつけたもの。

十善…十善の君。天子は前世に十善(仏教で言う十種の善行)を守った功德によつて生まれるとする考えから、天子のこと。ここでは法皇を指す。

上西門…大内裏の北西隅に近い門。

豊楽院…大内裏の西南部の宮殿。

真言院…大内裏の中央近くにあつた朝廷の修法所。

清涼殿…天皇の常の居所となる殿舎。

庚申の夜の御遊…庚申待ちの遊び。庚申の日の夜には体内の三戸さんしの虫が睡眠中に天に昇り、その人の罪科を天帝に告げるといふ道教系の信仰から、一晚中寝ないで催し事をする風習があつた。

奏達…天皇に申し上げること。

おほば…大庭。御所の庭。

紅梅殿…道真の邸宅の名称。

問一 傍線 a「おもはざりき、昌泰四年正月二十九日に、左大臣(藤原時平)讒奏ざんそうによりて、太宰権帥だざいのじんのかみにうつして、流罪の宣旨下るべしとは」の一文は、何と呼ばれる表現法を使っているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 反語法
- 2 倒置法
- 3 比喩法
- 4 脚韻法
- 5 擬人法

問二 傍線 b「三十一文字」の適切な読み方をひらがなで記せ。

問三 傍線 c「し」と同じ語である「き」はどれか。二重傍線イくホの「き」の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 イ
- 2 ロ
- 3 ハ
- 4 ニ
- 5 ホ

問四 傍線 d「ながれ行く われはみくづと 成りぬとも 君しがらみと なりてとどめよ」の歌にはどんな願いが込められているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 私を流罪にするのを思い止まるように言ってください。
- 2 私を陥れた左大臣を懲らしめるように言ってください。
- 3 菅根卿を太宰権帥にするように言ってください。
- 4 私の住処すまかを太宰府に移すように言ってください。
- 5 私の邸宅をこのまま残すように言ってください。

問五 傍線 e「つらをうたれ奉りたりける」とあるが、誰が誰に「つらをうたれ」たのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 菅丞相が左大臣につらをうたれた。
- 2 菅丞相が菅根卿につらをうたれた。
- 3 菅根卿が左大臣につらをうたれた。
- 4 菅根卿が菅丞相につらをうたれた。
- 5 菅根卿が帝王につらをうたれた。

問六 傍線 f「あさましくはおぼえし」とあるが、誰が「あさましくはおぼえ」たのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 法 皇
- 2 帝 王
- 3 菅 丞 相
- 4 菅 根 卿
- 5 書 き 手

問七 傍線 g「おさなき」と反対の意味を持つ語を本文中より抜き出し、終止形で示せ。

問八 傍線 h「東風」の読み方をひらがなで記せ。

問九 傍線 i「匂ひおこせよ」の現代語訳として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 むかしの栄華を思い起こさせておくれ
- 2 はなやかな美しさで咲き誇っておくれ
- 3 香りを太宰府まで送り届けておくれ
- 4 芳しい香りを盛んに放っておくれ
- 5 菅原家の威光を取り戻しておくれ

問十 この話の出典はなにか。次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 『石山寺縁起』
- 2 『清水寺縁起』
- 3 『北野天神縁起』
- 4 『東照権現縁起』
- 5 『当麻曼茶羅縁起』

